

# 地域づくりを知る

えひめ地域政策研究センターでの勤務を通じて

客員研究員 近藤 誠護(伊予銀行)

2009年4月～2011年3月までの間、財団法人えひめ地域政策研究センターにて研究員として勤務し、様々な地域づくり事例を学ぶことが出来た。地域活性化に関する研究や、舞たうんの編集、県外からの移住相談の対応等々業務を通じて地域づくりに対する理解が深まった。中でも特に印象

関心のある約300人が参加者として集まり、「出会う・つながる・動き出す～みんながけやぐ(仲間)青森で～」をテーマに、2010年11月11日～13日にかけての三日間、地域づくりに関する研修

深かったのは、「地域づくり団体全国研修交流大会青森大会」に参加したことであった。県内や近県の地域づくり事例を学ぶ機会が多かったのだが、県外の特に東北地方の地域づくりを学ぶ機会はなかったこともあり、非常に刺激的で実りのある研修となった。



青森県知事の挨拶

前夜祭では、三村青森県知事の挨拶に始まり、青森の伝統芸能である津軽三味線の演奏やねぶた

や意見交換が行われた。初日は前夜祭、二日目の午前中に全体会が行われ、午後



活動報告(分科会)

嗺子の実演、青森県産品のご馳走等、青森までの新幹線が開通することもあり、県を上げて青森を売り込もうという勢いで開場は青森一色となった。また、各地域自慢のB級グルメ屋台が会場内に設営されおり、その種類の多さに驚いた。その多くがB-1グランプリ

りにおいて上位入賞を果たしており、青森県の地域づくりに懸ける熱意を感じた。二日目の全体会では、伝統芸能の鑑賞、地域づくりに関するクイズ等で、楽しく地域づくりについて学び、その後参加者はバスで各分科会の研修地へ移動した。

歓迎会(分科会)



私は第八分科会「自然と歴史的資源を活かした地域づくり」に参加した。研修地であるむつ市は青森県の北部にあり、本州最北端に位置する。青森市から

は100km程の距離があり、移動中に見えるバスからの風景も愛媛のそれとは違うものであった。むつ市は日本三大美林のヒバの森や長い海岸線が続く豊かな自然に恵まれ、木材やアワビ等の海産物の産地として海上交易の舞台となった歴史がある。

分科会ではまず、むつ市で活動している地域づくり団体NPO法人斗南どんどこ健康村の取り組みについて紹介があった。NPO法人斗南どんどこ健康村は、むつ市の郷土の有形・無形の文化的資産の保存・伝承や、資源の研究・開発を始めとするさまざまな事業を行い、明るく活力のあ



時雨彫りの体験

る地域社会に寄与する活動を行っている。具体的な活動は次の3点である。  
①郷土資料の保存展示として、斗南どんどこ健康村内の郷土資料館及び南部裂織館を中心に、郷土の民族資料の保存展示や、普及活動の実施。  
②体験観光指導者研修会、体験観光講演会を開催して体験観光の促進。  
③下北ふるさと活性協議会の構成員として、地域の活性化を目指し、農業講演会の開催や、一球入魂かぼちやによるカボチャ焼酎の広報事業。

NPO法人斗南どんどこ健康村の活動は地元企業が中心となつて支えており、

特に分科会の会場となったむつブランド

ホテルは、活動の拠点であるどんどこ健康村をホテル敷地内に設置・提供しており、企業とNPO法人との協働の大きさに驚いた。

分科会最終日は日本三大霊山の一つである恐山の参拝を体験した。この時期恐



恐山門

山は冬期の閉山期間になつており、私たち一行以外は誰もおらず、霊山の雰囲気は十二分に味わうことができ

た。  
その後、地域の工芸技術である時雨彫り(杉の薄い正目板に砂を混ぜた圧縮空気を吹き付けて模様をくり抜く技法)を体験し、  
観光交流館まさかりプラザにて郷土料理の味噌貝焼きを頂きながらの最後の昼食交流会が催され、今後のそれぞれの地域づくり活動への協力を誓い合い帰郷の徒

おわりに

財団法人えひめ地域政策研究センターで勤務した二年間は、これまで関わることの少なかつた地域づくりを勉強する貴重な期間であったと思う。また、同時に多くの出会いがあり多くの人に支えられた二年間であった。お世話になつた方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。